

氏名	立 石 潤
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	甲 第 212 号
学位授与の日付	昭和42年 3 月31日
学位授与の要件	医学研究科内科系神経精神医学専攻 (学位規則第5条第1項該当)
学位論文題目	亜急性全脳炎の成人例—亜急性硬化性白質脳炎 (V. Bogaert) の2症例
論文審査委員	教授 奥村 二吉 教授 福 原 武 教授 山崎 英正

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

Economo 脳炎が見られなくなって以来、それに代るものとして近年欧米では散発性に発病し、亜急性に経過する一次性脳炎が問題とされている。この内比較的定型化された中核群として亜急性硬化性白質脳炎 (V. Bogaert) , Dawson の封入体脳炎, Pette - Döring の Panencephalitis 等が挙げられ、その異同が問題とされたが、臨床一病理学的に Dawson の封入体脳炎は亜急性硬化性白質脳炎と同じものを指すと思われ、Pette - Döring の Panencephalitis は雑多な病因に依るものを含み、単一疾患単位とは思えない。従来亜急性硬化性白質脳炎は小児の疾患とされ、剖検に依り、本病と記載された症例の最年長者は21才の例があるのみである。私は最近本病に属すると思われる30才女子と37才男子の2症例を見出したのでその特異な臨床経過及び剖検所見を記し、本病が稀ではあるが成人を犯すことを示した。併せて成人の亜急性脳炎例について文献的考察及び鑑別診断を試みた。

精神神経学雑誌69巻第3号に掲載予定

論文審査の結果の要旨

本研究は小児に多く見られるが成人例の報告は甚だ稀れである。立石は成人例の2例の臨床的及び脳病理学的研究を発表した。今後我が国に於ける脳炎研究者にとって貴重な参考となる論文である。よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。